

# 学術雑誌の科学史的研究：査読システムと学会との関係を軸として

伊藤憲二

総合研究大学院大学・生命共生体進化学専攻

本発表の目的は、学術雑誌に関する最近の科学史的研究を紹介しつつ、17世紀から20世紀半ばごろまでの学術雑誌の歴史を概観することである。ここではとくに、学術雑誌における査読システムと、学会と学術雑誌の間の関係に着目する。

現時点において、過去の学術雑誌に関して得られている知識には欠落が非常に多く、全体像を描くには程遠い状態にあると言ってよい。とはいえ、学術雑誌についての歴史的研究や社会学的研究は決して最近になって始まったものではない。例えば Derek Price の *Little Science, Big Science* (1963) も学術雑誌を大きく取上げて、その量的変化を論じており、David Kronick の *A History of Scientific and Technical Periodicals* は1962年に出版され、Harriet Zuckerman と Robert K. Merton の査読システムに関する古典的論文、“Patterns of Evaluation in Science: Institutionalisation, Structure and Functions of the Referee System”は1971年に発表されている。科学史の各時代・各地域の専門家たちは、当然その時代・場所で大きな役割をした学術雑誌には注意を払い、特に重要な個人、学協会、アカデミー、大学・研究所に関係している雑誌についてはなおさらであった。しかし、学術雑誌を軸とした研究は相対的に少ない状態が続いた。

この状況は21世紀に入ってから変わり始めた。特に2010年代に学術雑誌についてのまとまった研究書や雑誌の特集号が現れ、状況が大きく動きつつある。この動きの背景には多くの要因があると思われるが、一つは、学術雑誌の在り方に対する見直しが様々な分野で起こり、学術雑誌の歴史研究に対する社会的要請が発生したこと、もう一つは Lorraine Daston や Peter Galison などに代表される科学的物体に対する関心が、ノートや印刷物など、記録やコミュニケーションの媒体に向けられ（たとえば、Ann Blair や Richard Yeo などの研究）、それがさらに学術雑誌そのものを主役とした歴史研究を促したことをあつたと思われる（例えば、*History of Science* 誌の特集 *Seriality and Scientific Objects in the Nineteenth Century*(2010)における Alex Csiszar の論文)。新しく現れたまとまった研究には、例えば Melinda Baldwin の *Nature* 誌についての研究、Aileen Fyfe と英国 AHRC に助成された彼女の研究グループによる *Philosophical Transactions* とその他の学術雑誌についての一連の研究、David Kaiser や Roberto Lalli による *Physical Review* 等の米国物理学雑誌についての研究、上記 Csiszar の19世紀学術雑誌についての研究などを挙げることができる。

おそらく現代的な関心を反映して、これら最近の研究の重要な焦点の二つは、査読システムの変遷や、学協会との関係である。これらは私自身の関心でもあり同時に、このシンポジウムの主題と関わりが深いと思われる。本発表は、主にこれらの研究に依拠し、かつ可能な限り国内の各時代の専門家の協力を得ながら、17世紀から20世紀半ばまでのいくつかの重要な学術雑誌を例にとりあげ、この二つを主要な軸として学術雑誌の歴史的变化を見ようとするものである。